

別表A 造形芸術学科の教育研究上の目標

「産学一如」の建学の理想のもと、社会人としての教養と国際的な視野を持つ、心身共に健全な人間教育に努めるとともに、実践的学風を重んじ、造形芸術への熱意を育て、基本的な技能の修得、創造性の向上を図ることを教育研究上の目標とする。

各系列の到達目標は下記のとおりとする。

絵画・立体造形系	自己と向き合い、社会、自然とのバランスを図り、造形表現を生み出す感性を磨く。絵画・立体造形の基礎的理解を深め、素材の知識や技法を修得し、的確な思考に基づいた表現を行えることを到達目標とする。
デザイン書道系	デザイン書道の歴史的な位置づけを理解し、書の古典を中心に鑑賞力・表現力を修得することで、感性を高めると共に造形感覚を養う。文字を素材としながらも、様々な技法・用具・用材を生かした豊かな書表現を作り出すことを到達目標とする。
写真系	写真芸術の様々な表現様式と技術、さらに美学的概念を研究し、表現としての知識を修得する。そして、様々な実用的な写真分野(コマーシャル、ファッション、雑誌、新聞、人物)の現場で積極的に実力を発揮できることを到達目標とする。
グラフィックデザイン系	文字や写真、イラストレーションを使用した視覚伝達デザインについて基本的理解を深める。印刷、広告の基礎知識を基に、手作業と機器操作の両面から表現力を高め、視覚表現媒体を制作する知識と技術の修得を到達目標とする。
マンガ・イラスト・フィギュア系	平面から立体作品までのオリジナルキャラクターを幅広く学び、自己の制作における柔軟な発想力や現代感覚を磨く。マンガ・イラスト・フィギュアの日本のサブカルチャーに貢献できる知識と技法を修得することを到達目標とする。
アニメーション・映像系	アニメーションや実写を利用した時系列展開について基本的理解を深める。映像機器類、ソフトウェアの操作技能を高めるとともに、感性豊かな映像作品を制作し映像文化に貢献できることを到達目標とする。
ゲーム・メディアデザイン系	コンピュータ上で表現することを前提としたコンテンツ全般の制作について学ぶ。コンピュータそのものとソフトウェアへの理解を深め、新しい技術や機器を積極的に取り入れ、既存のものにも本来とは異なる新しい使い方を考え、それにより作品を制作する知識と技術の修得を到達目標とする。
インテリア・プロダクト系	人々の暮らしと密接に関わる道具や生活空間のデザインについて学び、素材や材料、条件や目的などの制約から、機能的に優れ造形的にも美しく、与条件に相応しいものを企画・設計し提案するための知識と技術の修得を到達目標とする。
陶芸系	ロクロ技法の習熟を授業の中心に据え、陶土や釉薬、窯焼成等素材や技法の理解を深めつつ造形感覚を高め、芸術的センスにあふれた陶芸作品の制作を到達目標とする。
ファッション・テキスタイル系	ファッションデザインの基礎技術やアパレル企業の実践的な知識を修得し、テキスタイルデザインを通して素材や技法についての理解を深め、自己の感性を表現する力を身につけ、豊かな文化創出の担い手となることを到達目標とする。

別表B 学習成果

九州産業大学造形短期大学部では、建学の理想、建学の理念及び教育目標等に基づき「学習成果」を以下のように定める。

<ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎的教養を身につけ、造形芸術の知識と技能を修得している ・ 創造力、表現力を通して、意欲的に社会に貢献することができる

別表C 学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

目指すべき人材像	今日の造形芸術領域の融合と多様化に適応し、誠実で創造性に富んだ、企業や社会に必要とされる人材の養成を目指す。
そのための具体的到達目標	社会人としての豊かな教養、総合的判断力の修得とともに、各系列ごとの専門的能力を追求し、今日の多様な社会や文化の創造に貢献し得る能力を養成することが到達目標である。基礎教育科目、外国語科目及び専門科目から所定の単位を修得し、卒業単位(62単位以上)の基準を満たしたものに短期大学士(芸術)の学位を授与する。

別表D 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

教育課程の理念	造形芸術領域の融合と多様化に対応し、社会のニーズに適應できる人材を育成するカリキュラムを構築する。基礎教育科目と外国語科目では必修科目、選択必修科目を中心に、豊かな社会性を養うことを目指し、専門科目では必修科目を少なくし、自由度が高く個々の修学の目的に対応でき、社会に有用な専門性を持った人材育成を志向する。
教育課程の構成	造形芸術学科の教育課程は基礎教育科目、外国語科目及び専門科目で編成する。基礎教育科目では、必修科目として大学生活から卒業後のキャリアまでを案内する科目を置き、選択必修科目として国語系科目と外国語科目を置く。専門科目では、すべての系列に共通する科目を共通専門科目とし、各系列に関する科目を3つの領域にまとめ、領域専門科目とする。初年度に共通専門科目の基礎となる科目を必修科目・選択必修科目とし、前学期にこれを学ぶ。後学期から各自の系列を意識しつつ、2年次につながる領域専門科目（系列専門科目）を学ぶ。2年次で各系列での選択必修科目を履修することで10系列に分かれる。領域専門科目での必修科目は最小限であり、カリキュラムとして造形芸術領域の融合と多様化に対応する。
教育課程の特長	1学科に10系列をおき、縦割りのカリキュラムを廃して、他の専攻の科目も時間割の許す限り履修することができる独自の科目構成とする。造形芸術領域の融合と多様化に適應し、個々の学生の様々な興味や目標に対応できるカリキュラムとする。自由度が高い個々のカリキュラム作りや、卒業後の進路の目標を大学での学びに的確に結びつけることを指導するため、少人数クラスでのクラス担任制、「プライマリーセミナー・造形基礎」「プライマリーセミナー・未来学」「キャリア・プランニング」などの基礎教育必修科目、オフィスアワーの実施などできめ細かく対応する。

別表E 入学者の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

<p>本学の求める学生像は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 芸術を愛好する心情を持ち、個性豊かな造形的表現力を身に付けようとする人。 ・ 何事にもとらわれない自由な精神を持つ人。 ・ 確かな技術の修得に努力する人。 ・ 造形芸術をとおり、地域社会に貢献する意欲のある人。
--

別表第1

授業科目の種類及び単位数

1 基礎教育科目

(1) 必修科目

キャリア・プランニング	2	プライマリーセミナー・造形基礎	2	プライマリーセミナー・未来学	2
-------------	---	-----------------	---	----------------	---

(2) 選択必修科目

実用国語(文章力)	2	実用国語(伝達力)	2
-----------	---	-----------	---

(3) 選択科目

キャリア研究	2	日本伝統文化	2	日本の歴史	2	世界の歴史	2
日本国憲法	2	哲学の世界	2	心理学の世界	2	文化人類学	2
美学・美術史	2	芸術の世界	2	ジェンダーと社会	2	創造と権利	2
スポーツ科学演習	2	実用数学(計算力)	2	情報処理演習 A	2	情報処理演習 B	2

2 外国語科目

(1) 選択必修科目

Reading & Writing I	1	Reading & Writing II	1	Reading & Writing III	1	Listening & Speaking I	1
Listening & Speaking II	1	Listening & Speaking III	1	English Expressions	2		

(2) 選択科目

フランス語 I	1	フランス語会話 I	1	韓国語 I	1	韓国語会話 I	1
---------	---	-----------	---	-------	---	---------	---